Hokkaido Nougyou Doboku
Sokuryou Sekkei Kyoukai Jihou

農土測協時報

令和6年
01月版
January

旅の途中「ナキイスカ」　飯田　直男

一般社団法人 北海道農業土木測量設計協会
札幌市中央区北2条西3丁目1-21 札幌北2条ビル5階

農土測協時報

令和６年１月版

□新年ごあいさつ

「2024年を迎えて」…… 1

(一社) 北海道農業土木測量設計協会　　会長　橋本　智史

「新年のご挨拶」…… 2

参議院議員　　進藤　金日子

「新春を迎えて」…… 4

参議院議員　　宮崎　雅夫

□創立50周年 記念事業開催…… 5

記念講演・記念式典・祝賀会・ドローン寄贈

□農業農村整備パネル展…… 10

□道北地域講演会…… 11

□社長 紹介…… 12

ダイシン設計㈱	代表取締役	本多　弘幸
㈱帝国設計事務所	代表取締役社長	足立　一郎
㈱ルーラルエンジニア	代表取締役	関藤　博臣
㈱プラテック	代表取締役	阿部　　操

□農業農村整備事業　優秀業者感謝状贈呈式…… 17

□お知らせ…… 18

2024年を迎えて

一般社団法人 北海道農業土木測量設計協会
会長　橋　本　智　史

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

また、日頃より当協会の事業活動と運営にご理解とご協力を戴き厚くお礼申し上げます。

昨年10月に創立50周年の記念式典、祝賀会、講演会を盛会裏に終えることが出来ました。式典では、土屋俊亮副知事、進藤金日子参議院議員をはじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、50年の事業活動や会員各社の功績への敬意と今後への期待など沢山のご祝辞を戴きました。また講演会は髙木菜那さんを講師に迎え、オリンピック選手としてメダルを獲得した時の心境など有意義なお話を伺うことができました。また、道農政部には50周年記念としてドローン２機を寄贈し、感謝状を戴きました。

この50年の節目を契機に、技術者集団としての責務を改めて認識し、将来に向けて本道農業の発展と農村の振興に貢献できるよう、会員の皆さまの益々のご奮闘を期待したいと思います。

協会といたしましても、人材育成・技術の研鑽が急務となっている状況において、測量士を目指し測量技術を学ぶための技術者資格取得支援事業を継続するほか、新たに技術士資格取得支援を検討したいと考えております。

さて、国際情勢の不安定化により、食料安全保障への国民の関心が急激に高まっている中、大規模な農業が展開されている本道農業への期待は益々大きくなっており、生産力の飛躍的向上に向けてスマート農業の推進や、防災・減災対策の着実な推進が急務となっています。

このため、農業農村整備事業により、農地の大区画化や排水改良を進め、農業の生産力・競争力の強化と農村地域の防災対策を推進することが重要となっています。

当協会としても国会議員をはじめ、関係機関等へ予算の安定的確保を強く要望し、調査設計事業を通じての事業の推進を支援してまいります。

この他、昨年７月５日～６日に実施した、網走・知床方面での経営者視察研修会は32名の参加を戴き好評でした。今年は本州方面での実施を希望する多くの声を戴いておりますので、秋の本州開催を目指して検討して参ります。

また、社会貢献事業として購入した「伊能大図」については、関係団体等が開催するイベント等への貸し出しを行って参りますので、道民の皆様が測量技術の歴史を学ぶ機会に活用して戴けると幸いです。

本年が皆様にとりまして、輝かしい年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

財務大臣政務官　参議院議員
進　藤　金日子

新年、明けましておめでとうございます。北海道農業土木測量設計協会の会員の皆様には、旧年中大変お世話になりました。昨年末、財務大臣政務官を拝命いたしました。引き続き、現場主義、地域主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興のため全力を尽くしてまいります。本年も何卒宜しくお願い致します。

昨年５月に新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行し、国民の生活も平穏を取り戻しつつあります。一方、ロシアのウクライナへの侵略は昨年も収束せず、10月にはイスラエルとパレスチナの紛争も勃発しました。こうした状況下にあって、エネルギー価格、小麦・とうもろこし等の穀物価格、飼料価格や肥料価格、資材価格等も概して高止の傾向であり、物価上昇が国民生活を圧迫しています。

土地改良予算については、昨年11月に成立した令和５年度補正予算で1,777億円が措置され、令和６年度当初予算政府原案の4,463億円と合わせて6,240億円となり、令和５年度予算よりも106億円上回る予算を確保しました。この予算額で各地域において必要な事業を計画どおりに実施可能かどうか、現場の実情をしっかりと精査していく必要があると考えています。

さて、今年の農政における大きな課題は、制定以来四半世紀を経過した食料・農業・農村基本法の初めての改正です。政府が昨年６月に決定した「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」の具体的な施策の内容について、自民党では昨年９月から「農業基本政策」、「農地政策」、「食料産業政策」の３つの検討分科会を設置し、少数のメンバーで議論を重ねました。私は、この３分科会の全てに委員として参画し、農地政策検討分科会では事務局長を務めました。そして、昨年末には、検討結果を取りまとめ岸田総理へ提言を行うとともに、「食料安全保障強化政策大綱」の改定に当たって提言内容が反映されたところです。この大綱が本年の通常国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案とともに関連法案と予算制度につながっていくわけです。

提言は、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展、地域コミュニティの維持」の観点から構成されており、生産基盤の維持につながる農地の確保、農業生産基盤整備と保全の推進、人材の育成と確保、生産資材の確保、輸出の強化、農産物の適正価格の推進、環境負荷低減に資する取組促進、地域計画に基づく人・農地の確保、スマート農業の導入促進、地域社会の維持等を具体的な施策として進めるべきとの内容になっています。

私は、従来から我が国の食料供給力（食料自給力）の強化に当たっては、①農地・農業用水等

の農業資源の機能の維持・向上を図る土地改良対策、②農業者を確保・育成する担い手対策、③農業技術の向上を図る試験・研究、普及・生産対策を別々でなくパッケージで早急に実施することが必要と訴えています。

また、主食用米の生産調整を基軸にした転作奨励金施策を転換して、食料安全保障を強化するために目標自給率の達成に必要な品目ごとの生産努力目標を前面に出して、生産者にも消費者にも分かりやすい政策を展開すべきと主張しています。

「食料自給力」の最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、農業者の激減が見込まれる中で農地と水の持っている機能を維持・増進する土地改良はこれまでにも増して重要となります。私は、本年も現場で必要となる土地改良予算の安定的な確保に努めるとともに、法律の整備や制度の拡充等土地改良事業の環境整備を行い、農業農村の振興に向けて更に邁進してきたいと決意を新たにしております。皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げ、また、貴連合会の一層のご発展とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶といたします。

新春を迎えて

元農林水産大臣政務官　参議院議員
宮　崎　雅　夫

新年明けましておめでとうございます。

北海道農業土木測量設計協会の皆様には、輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より事業活動を通じ、地域の人々の暮らしや安全を支えるとともに、我が国の発展に資する事業を推進していただいていること、まちづくりや地域貢献活動など地域づくりに取り組んでおられることに心より敬意を表します。また、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、農林水産大臣政務官を勤めさせていただいた経験をもとに、現場でお聞きした皆様の声を国会等で発信し、お受けした、沢山のご要望等に対し、それぞれの地域の課題解決等に向け、全力で努力いたしました。これらご要請を含め、昨年11月に成立した令和５年度補正予算では、農林水産関係で総額8,182億円を確保できました。

我が国の国土の大半を占める地方において、農林水産業の持続的な発展を進めていくことは、地方に暮らす人々にとって重要であるばかりではなく、国土の保全や国民への食料の供給など、我が国の存続の基盤でもあります。

土地改良、森林整備、治山、漁港漁場整備など、農林水産公共工事は、このための重要な役割を担っており、この推進には皆様のお力が不可欠です。

私は、皆様が中長期を見据え事業活動できるよう、これからも農林水産公共予算の確保のほか、歩掛り改定や担い手確保など現場の諸課題に向き合ってまいる所存です。

引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでにも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりお伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいる決意ですので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、北海道農業土木測量設計協会の皆様にとって素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げますとともに、皆様の益々のご発展とご健勝を心よりご祈念申しあげ私の新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

創立50周年記念事業開催

○協会は令和５年に創立50周年を迎え、昨年10月30日に札幌ガーデンパレスにて、記念講演、記念式典、祝賀会を開催した。

＜記念講演＞

冬季平昌五輪金メダリストの髙木菜那さんを講師に迎え「なな転び八起き～私がいま伝えたいこと～」を演題に記念講演が行われた。

髙木さんは、自身の競技人生を振り返り、「自分を見つめ、向上させていくこと」の大切さを説明。金メダルを獲得できた理由として「考え続けること、挑戦し続けることができたこと」の２点を挙げ「引退試合も笑顔で終えることができた」とし「今後は自分の第２章を歩んでいこうと思っている」と話された。

＜記念式典＞

関係者約130人が出席し、半世紀を刻んだ協会の歴史を振り返った。

式辞に立った橋本智史会長は「北海道農業の発展に大きな役割を果たしてきた」と50年を回顧し、今後も「未来に向かって本道農業の発展と農村振興に貢献できるよう、技術者集団として責務を再認識し、会員各社と共に努力していく」と決意を述べた。

来賓祝辞では、土屋俊亮北海道副知事、進藤金日子参議院議員が登壇し、次の100年に向け、協会が今後もさらなる発展を遂げるよう祈念した。

また、表彰式も行われ、橋本会長から会員企業30社への表彰状、役員６人への感謝状が贈られた。受賞者を代表し、菊地技術コンサルタント㈱の菊地勇代表取締役会長が謝辞を述べられた。

橋本会長 式辞

土屋副知事 祝辞

進藤参議院議員 祝辞

記念式典　全景

（役員表彰）

菊地技術コンサルタント株式会社	代表取締役会長	菊地　勇
技研測量設計株式会社	取締役会長	筒井　幸雄
北王コンサルタント株式会社	代表取締役会長	熊頭　勇造
株式会社みずほ栄設計	代表取締役社長	原　正行
株式会社よしだ設計コンサルタント	代表取締役	吉田　浩幸
一般社団法人北海道農業土木測量設計協会	前会長	神　耐三

（会員表彰）

株式会社アース設計事務所
株式会社イーエス総合研究所
上山試錐工業株式会社
サン技研株式会社
トキワ地研株式会社
北成コンサルタント株式会社
北海道土質コンサルタント株式会社
株式会社北海道農業建設コンサルタント
明成コンサルタント株式会社
北山測量設計株式会社
協友測量設計株式会社
道南測量設計株式会社
株式会社伸栄コンサル
扇コンサル株式会社
技研測量設計株式会社
嵯峨秀栄測量設計株式会社
株式会社創生コンサルタント
株式会社空知コンサルタント
北海道調査補償株式会社
明和測量工業株式会社
株式会社ルーラルエンジニア
アースコンサルタント株式会社
株式会社葵開発コンサル
大地コンサルタント株式会社
サン技術コンサルタント株式会社
アラヤ総合設計株式会社
株式会社中央エンジニア
株式会社十勝測量設計社
株式会社土木技術コンサルタント
株式会社富士雄設計コンサルタント

（敬称省略）

＜祝賀会＞

午後５時30分からは祝賀会が開催された。橋本会長があいさつに立ち、「多数の関係者の列席に謝意を表すとともに、限りある時間ではあるが、楽しい時間を過ごしてほしい」と述べた。

来賓祝辞では、水戸部裕北海道農政部長が次の100年を目指し、協会がますます発展するよう祈念した。

続いて、北海道農業建設協会の荒井保明会長の祝杯の音頭で祝宴に移り、関係者が50年を振り返りながら、和やかに歓談した。

最後に北海道土地団体連合会の菊地博会長理事の締めの発声で閉会した。

水戸部部長　祝辞

荒井会長　乾杯

菊地会長　締め

空撮ドローン２機寄贈

令和５年に協会創立50周年を迎えたことを記念して、10月20日に道庁を訪問しドローン２機を寄贈した。

贈呈式では、橋本会長が土屋俊亮副知事にドローンの目録を手渡した。

続いて、土屋副知事より橋本会長に感謝状が贈られた。

贈呈後、橋本会長は「協会がここまで長く続けてこられたのは、皆さんの指導・支援のおかげ」と感謝した上で「現在、道が進めている農業基盤の推進やＩＣＴ農業の推進のため、ぜひ活用を」と挨拶した。

土屋副知事からは寄贈の趣旨に沿った活用を約束した上で「50周年を機に、さらに先の100年を見据えて活躍することを期待する」と述べられた。

［概要］

品　名	使用目的等	配置先
DJI Mavic3 空撮セット	・農地や農業施設の保全管理 ・農地海岸や災害時の現場確認	農政部 農村計画課
DJI Mavic3 Pro 空撮セット	・操作技術導入に係る指導者の育成 ・スマート農業に係る意識醸成等に活用	農業大学校

副知事ほか農政部関係者と協会役員

農業農村整備パネル展

広く一般市民向けに、農業基盤整備の必要性、有効性の認識や理解を深めていただくため、「農業農村整備パネル展」を実施しています。

昨年同様、「美味しいごはんをつくるためには」と題して基盤整備の役割など分かりやすく説明したパネル展示のほか、暗渠排水の模型及び区画整理模型の展示を行いました。

本年度は、９月30日（土）道庁赤れんが庁舎前で開催された令和５年度「農業農村ふれあいフェスタ in 赤れんが」のイベント会場のテントで参加致しました。

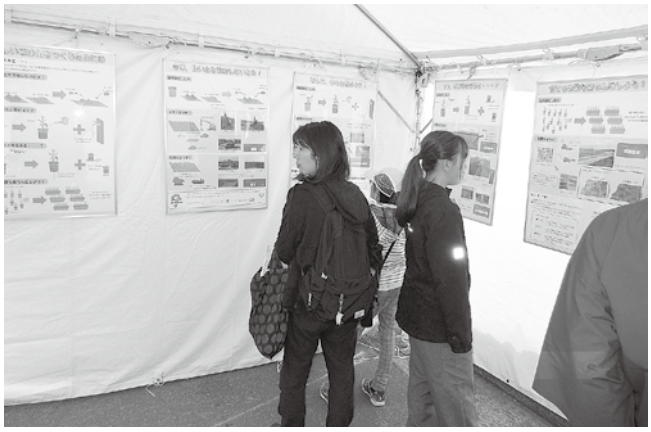
当日は、大通公園の「2023さっぽろオータムフェスト」の最終日と重なり、また、新型コロナの分類が５類に移行したことと相まって、多くの家族連れや外国人観光客の来場がありました。

初めて展示した暗渠排水の仕組みを説明、"じょうろ"で上から水を流すと、地中を浸透した水が排水される様子を興味深く見入る姿がありました。

スタンプラリーのブースに指定されていたため、小学生以下の子供たちには「プラトンボ」をプレゼントし、大変、喜ばれました。

当日は展示パネルの準備、説明、後片付けまで、長時間ご協力をいただきました会員の皆様にお礼申し上げます。

暗渠排水の模型（説明）



「美味しいごはんをつくるためには」と題したパネルの展示

プラトンボのプレゼント

道北地域講演会

令和５年９月25日に旭川市トーヨーホテルで「道北地域講演会」を道北地域の会員、振興局、土地改良区、市町職員の98名の参加を得て開催した。

元会計検査院第５局長、現静岡県代表監査委員の森裕氏から「アフターコロナの検査－設計、積算そして施工」と題して講演。

研修会の冒頭、主催者の橋本会長から「農業農村整備に携わる者として検査は避けて通れない。」検査官として指導経験のある森氏が事業に携わるうえでの心構えについて貴重な講演をしていただける。有意義な時間にできれば。」とあいさつした。

森氏の講演では、会計検査院の目的、役割や業務、検査の流れを紹介。

検査の着眼点として、「需要を的確に把握した計画であるか」「必要以上の規模、規格のもので設計していないか。」「設計や現地の作業条件に適合した積算になっているか」など具体例で説明され、その後「質疑応答」が行われた。

講演終了後、測量機器や協会所有の「古地図パネル」の「特別展示」を実施し参加者は、それぞれ担当説明員の説明をうけていた。

講演会の開催状況

測量機器・古地図パネルの特別展示

ダイシン設計 株式会社

代表取締役　本多　弘幸

はじめに

新年あけましておめでとうございます。甲辰の本年、創立51年目を歩み始めた一般社団法人北海道農業土木測量設計協会並びに、橋本智史会長をはじめ会員の皆様におかれましては、日々の研鑽が実りこの一年益々ご発展されることをご祈念いたします。

この度は、農土測協時報において会社紹介の機会を頂き感謝いたします。

会社紹介

当社は、創業者である大久保の「大」、盟友である神田の「神」をとり「ダイシン設計」と命名し昭和54年11月に産声を上げ現在では社員100名を超える会社に成長しました。総合建設コンサルタントとして、高度な技術を社会に還元することを経営の理念とし、社会的信用を高め、高度な業務に挑戦し、多様な技術の習得を目指しています。業務は、道路、橋梁等の社会インフラや、水田、ため池、用水機場等農業生産基盤等、幅広い分野における調査、設計、点検業務に携わっています。

自己紹介

私は、道庁退職後、縁があってダイシン設計に入社し、第５代社長として現在就任３年目を迎えたところです。元々は土木技術者として、主に道路整備の計画、設計、監督業務に携わってきており、農業土木に触れたのはダイシン設計に入社して初めてでしたが、食料供給基地である北海道にとって、農業農村整備事業の重要性・必要性を改めて認識したところです。

今後とも、ダイシン設計がその一翼を担っていることに責任と誇りを持ち、会社として一層の組織力強化に取り組んで参りたいと考えております。

終わりに

北海道農業を取り巻く環境は、国際情勢の不安定化による生産資材や燃油の価格高騰、少子・高齢化による担い手農家の減少など大変厳しい状況にあります。今後、本道において農業生産の質・量とも安定的に確保していくためには、営農の効率化、農地利用の高度化への取り組みを一層推進する必要があることから、農業農村整備の重要性は益々高まっていくと考えます。微力ではありますが、これからも弊社は当協会の一員として貢献していく所存です。

最後になりますが、今後とも協会並びに協会員の皆様の変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

株式会社 帝国設計事務所

代表取締役社長　足立　一郎

はじめに

新年あけましておめでとうございます。協会員の皆様におかれましては、新たな年を迎え、益々ご清祥のこととお慶び申上げます。この度は農土測協時報での社長紹介の機会を頂き、誠に有難うございます。

会社紹介

弊社は昭和49年に札幌市東区に創業し、皆様のご支援、ご指導のもと今年創立50年を迎えます。創業当時は農道、橋梁等の調査設計を主に行っていましたが平成20年頃からは区画整理や暗渠排水の面工種へと業務内容がシフトしてきました。現在は農業農村整備事業に加え、道路、橋梁点検・補修、上下水道、河川、公園整備等、多様な部門の調査設計を実施しています。

自己紹介

私は昭和35年に網走市で生まれ、今年で64歳になります。父の転勤により函館、帯広、釧路と道内を転々とし、昭和58年３月山形大学農学部農業工学科を卒業後、北海道職員（農業土木職）に採用されました。初任地の網走支庁中部耕地出張所（北見市）で用地業務を担当後、根室、十勝、本庁勤務を経て令和元年５月北海道職員を退職しました。道職員時代の現場経験は係長も含め９年間と短かったですが農道、畑総、営農用水、草地整備、海岸保全等、色々な事業を担当することができました。また、本庁では今はなき技術開発係で家畜ふん尿処理の設計参考資料や土層改良指針の取りまとめの他、パワーアップ事業（農家負担軽減対策）や現在、主に水田地帯で行っている通年施行制度要求も経験することができました。協会員の皆様には大変お世話になり、この場をお借りしてお礼申し上げます。縁あって令和元年７月に（株）帝国設計事務所に入社し技術顧問を経て令和３年６月に代表取締役社長に就任しました。趣味は平成10年に十勝で始めたルアーフィッシング。当時はニジマス、アメマスを求めて日の出から日没まで頑張っていましたが、最近は体力の衰えと熊が心配であまり行ってません。

終わりに

中小企業においても令和２年４月から時間外労働の上限規制が適用になりました。休みがとれる職場環境は非常に大事なことですが、活き活きと働けることが本当の働き方改革だと思います。社員がやりがい感と誇りをもって働き、発注者はもとより地元関係者からも技術面、人間性においても信頼される会社になることを目指し、一歩ずつ取組んでいきたいと考えていますので、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いします。

株式会社 ルーラルエンジニア

代表取締役　関藤　博臣

はじめに

日頃より、北海道農業土木測量設計協会の会員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございます。

また、今回、農土測協時報に紹介の機会をいただき、心から感謝いたします。

会社紹介

弊社は平成10年９月公益財団法人 北海道農業近代化コンサルタントよりに分離・分割し設立され、今年で25周年を迎えます。

主な業務としては、農業土木・土木・建築に関する測量、調査、設計、施工管理などの技術業務に加え、農業農村の事業計画立案、環境調査、営農に関わる調査解析業務などを行っています。

現在、深川本店と札幌支店で役員・社員合わせて70名の体制で農業農村整備事業を核とした農村地域の持続的発展を目指して業務を進めています。

自己紹介

私は登別市出身で現在63歳になります。地元の高校を卒業後は北海道大学に進学し卒業後は北海道庁に勤務しました。主に農政部の農業農村整備事業に携わる業務に従事した他、深川市や農水省への出向などの経験を重ね、農村計画課長、農地整備課長を務めた後、監査委員事務局での勤務を最後に退職しました。平成30年に現会社に再就職し、令和２年より専務取締役、令和３年より代表取締役に就任し現在３年目となっています。

会社での在籍期間が短いこともあり、社員との和を大切にしながら、社員のモチベーションを高め個々の技術力を引き上げ、その結集したチーム力を会社の発展に繋げていければと思っています。

終わりに

現在、業界を抱える大きな課題として深刻な人材不足が挙げられます。人をいかに確保し育成していくかが会社はもとより業界全体の行く末を握る鍵だと思っています。今後とも会員の皆様方と知恵を出し合い協力しあいながら、この課題解決に向け歩みを進めていきたいと思っています。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

株式会社プラテック

代表取締役　阿部　　操

はじめに

この度は当協会が発行する『農土測協時報　社長 紹介』への掲載の機会を与えて頂き、誠に光栄で感謝申し上げる次第です。

私こと、令和３年３月に召集された弊社臨時株主総会、臨時取締役会において承認を受け、４月１日付で代表取締役に就任いたしました阿部　操と申します。

弊社は、北海道農業土木測量設計協会に入会を認められてから10年ばかりの日の浅い会社ですが、協会各位の皆様方には大変お世話になっていますこと、この場をお借りして心より感謝し厚く御礼申し上げます。

会社紹介

創業は昭和44年、釧路市で中島ボーリングを立ち上げ、その後昭和56年１月に法人化し社名を中島ボーリング有限会社としました。更に平成８年３月に中島ボーリング株式会社に商号変更し地質調査業を営む会社となりました。平成12年12月から社名を株式会社プラテックとして測量業、地質調査業、建設コンサルタント業、補償コンサルタント業、労働者派遣業の登録の許可を頂いております。

拠点とする本社を釧路市に置き札幌市と根室市に支店を構え役職員33名で全道の諸官庁、北海道、市町村に加え民間企業からもご指名を得て受注させて頂いております。特に、農業農村整備事業につきましては釧路総合振興局、根室総合振興局をはじめ全道の（総合）振興局からご指名を頂き、また、受注させて頂いています。

社会経済情勢が複雑・多様化しているいま、弊社は『水・空気・大地を創造する』を基本理念とし、併せて持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を宣言したなかで、時代が求めるものを的確に捉え即応できるよう、更なる技術力の向上と人材の育成に努めていく所存です。

自己紹介

私は、昭和32年11月７日に阿寒郡鶴居村支雪裡という山村で男４人兄弟の末っ子で生まれました。現在の鶴居村役場から約13Ｋｍ（３．２５里）離れた山奥で酪農業を営んでいた家庭で５歳まで暮らしていました。父は弟夫婦に家業を譲り釧路市に於いて土建業を起業し、その営みの中で小学校、中学校、高校を卒業しました。当時は第１時オイルショックにより日本経済が大きな影響を受け、どの業界も経営状況が悪化する中、非常に厳しい就職難の時でしたが、父の薦めもあり北海道測量専門学校測量科に進学し昭和53年３月（第３期生）として卒業しました。卒業後は地元のコンサルタント会社に入社し国土地理院発注の四等三角点測量業務に携わりました。

その後は主に用地、管理、路線測量業務を長く経験し、平成23年に株式会社プラテックに入社しました。入社してからは農業農村整備事業に深く携わり技術部長、常務取締役、専務取締役を拝命し入社10年を迎えた年に代表取締役に就任しました。

スポーツが好きで小学校、中学校時代にスピードスケートとアイスホッケー部に所属し全道大会に出場した経験があります。更に中学校、高校時代には柔道部に入部し17歳で講道館柔道に挑戦し、その時山下泰裕（公益法人日本オリンピック委員会会長）と乱取り稽古をしたことも思い出の一つで、現在は２段を保有しています。66歳になった今スポーツにほぼ縁のない暮らしをしていますが最近絵画に興味を持ち、やたらと書いた絵を社屋のあちこちに飾り自己満足の世界に浸っています。

私は、『無功徳』を座右の銘として自身を戒め、また釈迦の教えの一つに『過去に囚われてはいけない、未来を待っていてもいけない、ただこの瞬間に集中すすること』を信じて社業を全うしていくことにしています。

終わりに

我が国の食料自給率は38％と先進国の中で最低水準です。1965年頃には70％以上の自給率でしたが、安い外国産におされて生産農家が減り現在に至っています。今、輸入する農産物が高騰し、かつ、輸入量低下で市場関係者は困り果て、消費者は価格高騰で買い控える状況にある中、北海道農業の役割は極めて重要であると捉えていかなければなりません。このような食の安定供給につながる役目として農業農村整備事業に携わる弊社は常に貢献してゆく所存です。

今後は、一般社団法人　北海道農業土木測量設計協会が更なる飛躍を目指し達成するための協会員として、一層の努力を惜しまず寄与してゆく所存です。

当協会の皆様方におかれましては、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、雑駁ですがご挨拶に代えさせて頂きます。

令和５年度　農業農村整備事業
優秀業者感謝状贈呈式

令和５年11月17日、ホテル ポールスター札幌において「令和５年度 農業農村整備事業優秀業者感謝状贈呈式」が執り行われました。

髙崎農政部農村振興局長から受賞各社の代表者に感謝状を手渡した。感謝状は前年度に完成・完了した工事・委託業務に関し特に優秀な成績を収め本道農業の発展に寄与した業者を表彰するもの。委託部門からは、㈱ルーラルエンジニア、㈱田西設計コンサル、大地コンサルタント㈱、㈱中神土木設計事務所、北王コンサルタント㈱の５社が選ばれました。

水戸部農政部長に代わり感謝状を贈呈した髙崎農村振興局長は、農家や営農作業との調整など、高い技術力と創意工夫のある対応で優秀な成果を上げた受賞者に対し敬意を表明。頻発・激甚化する自然災害への対応をはじめ、地域の守り手としての役割にも期待を寄せた上で、事業の推進に当たっては、「受注者双方の働き方改革が一段と進むよう、意見を伺いながら取り組んでいきたい。」と述べられました。

㈱ルーラルエンジニア

㈱田西設計コンサル

大地コンサルタント㈱

㈱中神土木設計事務所

北王コンサルタント㈱

協会行事予定

令和５年度		
１月	１月17日（水）	第４回 理事会（ポールスター札幌）
	１月中旬～	各地域懇談会
２月	２月中旬	第２回 業務推進委員会
３月	３月１日	技術者資格取得支援事業 令和６年度募集開始
令和６年度		
４月	４月中旬	定期監査
	４月23日（火）	第１回 理事会（ポールスター札幌）
５月	５月30日（木）	令和６年度 通常総会（ポールスター札幌）
10月	10月上旬	農業農村整備パネル展（場所：赤れんが庁舎 前庭）

会員の人事動静

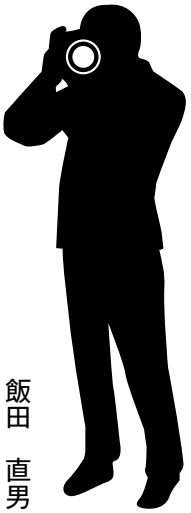
・㈱協和コンサルタント
令和５年11月　　代表取締役会長　上　村　正　信
　　代表取締役社長　若　井　克　文

おくやみ

・㈱郡土木コンサルタント
前代表取締役　郡　冨士夫　様（享年63歳）
没　令和５年10月25日
ご冥福をお祈りいたします

・やまざきコンサルタント㈱
取締役会長　　山﨑竹三郎　様（享年93歳）
没　令和５年11月30日
ご冥福をお祈りいたします

撮影秘話



飯田　直男

写真仲間から電話があった。

「ナキイスカと言う珍しい鳥が来ているから、撮りに来ないか」との、お誘いの電話である。

「イスカ」と言う鳥の名前は聞いたことがあるのだが、「ナキイスカ」と言う名前は初めて聞く名前である。　まずは、「イスカ」という鳥のことを教えてもらい、「ナキイスカ」はイスカの背中に白い模様を持った極めて珍しいイスカの仲間であることを知った。友人が言うには、「過去にイスカは見たことがあるが、ナキイスカは見ること自体初めて」で、どうやら、イスカの群れに紛れ込んでの、渡りの途中に立ち寄ったものと思われる。

次の日の早朝に、その友人と落ち会い、案内されたところは街の中の公園で、暫くすると、７～８羽ほどのイスカの群れの中に、１羽だけ背中に白い羽根をもったナキイスカが紛れ込んでいる。　その群れは、どうやら松の実を食べに、この公園に来たようである。

私たちの他に、数人のカメラマンが来ていて、皆一様に、ナキイスカを撮っている。　暫くすると、群れ全体が一斉に飛び立って行ったので、皆一斉に車での追跡となった。　目指すは、松の生えている近くの公園で、この公園でも、さきほどと同様に、松の実を食べていた。　この時期、イスカの仲間は、松の実を主食にしているようである。　３箇所ほど、この群れを追いかけたのだが、とうとう見失ってしまった。　撮っていた人たちで、手分けして探したのだが見つからず、この日の撮影は終わりとなった。　日の出前から２時間ほどの撮影だった。　撮っていた人たちが言うには、「３日ほど前から見かける様になりった」とのことである。

数日後に、友人にお礼の電話を入れると、「今ではもう見かけなくなった」とのことで、渡って行ってしまったようである。　撮影してから数年たつが、今日まで、この鳥のことは聞いたことはなく、情報をくれた友人に「感謝の一言」である。

農土測協時報　令和６年１月版

発　行　一般社団法人 **北海道農業土木測量設計協会**
〒060-0002
札幌市中央区北2条西3丁目1-21 札幌北2条ビル5階
TEL：011-205-5310　FAX：011-222-3277
E-mail ndsk@sage.ocn.ne.jp
ホームページ http://hokkaido-ndsk.or.jp/

印　刷　東洋株式会社